岩手県立博物館だより

Newsletter of the Iwate Prefectural Museum
岩手県立博物館ホームページアドレス
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/

2017.12 No.155

目次／テーマ展　ひとのかたち～ひなまつりを迎える前に～**表紙**／いわて自然ノート　里山の鳥・サンコウチョウの生態 **p.2-3**／展覧会案内 巡回展「海を越えた絆～『ミス岩手』と青い目の人形～」**p.4**／展覧会案内 テーマ展「ひとのかたち～ひなまつりを迎える前に～」**p.5**／事業報告　岩手県文化振興事業団自主事業「なつやすみ★スペシャル！」事業報告　第74回自然観察会「稲庭岳～秋の山を楽しむ～」**p.6**／活動レポート　第９回岩手県立博物館まつり・第39回盛岡矯正展－タッグフェスタin松園－**p.7**／インフォメーション**p.8**

テーマ展

ひとのかたち～ひなまつりを迎える前に～

2018年1月8日(月・祝)～2月12日(月・祝)

人形（戦前）　　個人 蔵

台座の裏に「職はつがへど こころは一つ 国のため 元気で行こう銃後の戦士」「たのしき夢青春の 鉱山の想出なつかしき」「大萱生製錬所 時々思い出すてね」などの付箋（ふせん）が貼られています。大萱生の鉱山関係者の女性たちが、山を離れる友に送った人形と考えられます。

本展の開催に先立ち、盛岡市・大ヶ生（おおがゆう）集落の皆さんが卒業生名簿などを手掛かりに、このお人形の来歴を調べてくださいました。その成果は、盛岡市都南歴史民俗資料館企画展「山のチカラ 大萱生鉱山」〔会期：平成29年12月17日（日）まで（※月曜休館・祝日の場合は翌平日）〕で先行紹介されます。

■いわて自然ノート

里山の鳥・サンコウチョウの生態

上席専門学芸員　藤井　忠志（生物学部門）

■はじめに

どのような生物が存在するのか？という生き物の状態から環境の状況を予測したり、推定することを生物指標法といい、このとき使われる生物を指標生物といいます。今回は里山の指標鳥類・サンコウチョウという鳥の生態の一部を紹介します。

人里近くにあり、人間の生活と密接な関係のある森林を里山と呼びます。サンコウチョウはカササギヒタキ科サンコウチョウ属に属し、雄は30cmほどの長い尾をひらひらさせ、コバルトブルーのアイリング、口の中は緑色と派手な色彩です。それに比べ、雌は尾も短く、羽毛の色彩も地味で、貧相に見えます（図１）。

図１　サンコウチョウのつがい

雌雄ともに「ツキヒホシポイポイポイ」とさえずり、それを「月・日・星　ぽいぽいぽい」と聞きなしたことから、三つの光と解釈され、和名は「三光鳥」と命名されています。地球上の生物名の世界共通語である学名は、*Terpsiphone atrocaudata*と表記され、「黒い尾の楽しい声」という意味合いがあります。例年、私たちの岩手県には、５月20日前後に渡来し、子育てを行い、９月下旬にはまた東南アジア方面に戻るようです。

■営巣活動

サンコウチョウは人里に近いスギ*Cryptomeria japoniica*やホオノキ*Magnolia obovata*が混交する薄暗い林に生息し、そこで繁殖活動を行います（図２）。

図２　サンコウチョウの生息林

サンコウチョウが営巣する場所は、主にホオノキの二股の部分で、スギの皮を運んできて、二股部分に巻き付け、クモの巣を絡めて巣の底を固定させ、つぼ状の巣にします。その際、大切なのが巣の上部のホオの葉です。図1からもわかるように、上部がホオの葉で覆われていることにより、直射日光を避けることができるのです。その他、雨よけや風よけにもなるのかもしれません。いずれ、このような営巣環境は、どのつがいでも共通しているようです。そして完成時には、ウメノキゴケ*Parmotrema tinctorum*を外部に貼り付け、カモフラージュを施します。その間、つがいは何度も産座に座っては居心地を試して、補修作業を行います。このウメノキゴケは、大気汚染の悪化や改善といった移り変わりをよく反映する性質があり、優れた「大気汚染指標生物」として活用されています（大村 2017）。さらに、乾燥や紫外線からも守る働きがあり、このような有用な素材を利用するサンコウチョウの知恵には、感心するばかりです。

■夫婦関係

筆者が、長年にわたって調査研究している日本最大のキツツキであるクマゲラ*Dryocopus martius*にもいえることですが、サンコウチョウの場合もすべてにおいて、雌が雄をリードするように活動しています。そのことを顕著に示す抱卵期における一例を以下に紹介します。

＊雌が巣にいる場合：①雄が近くにやってきて、ツキヒホシポイポイポイと鳴く→雌がポイポイポイと反応する→雄が巣にやってきて交代する。②雄が近くにやってきて、ツキヒホシポイポイポイと鳴く→雌が無反応→雌にその意志がなく、交代しない。

＊雄が巣にいる場合：③雌が鳴かずにやってきて、雄の意志には関係なく（半強制的に）交代する。

いかがでしょうか？この雌の行動を皆さんはどう解釈しますか？非常に独善的に見えますが、こうしなければ繁殖活動が成功しないのかもしれません。

■育雛期の食性

上記のように雌雄交代で抱卵し、約２週間で孵化後、雛は羽毛もはえそろっていない状態の9日程度で巣立ちします（図３）。ホオの葉で上部が覆われている

図３　巣立ち後の雛

とはいえ、巣内に長く滞在していることはカラスなどの天敵からの防衛上、危険なのだと思います。その間、雛には、巣立ち後にアブをはじめとする昆虫類が大量に与えられていました。撮影画像から給餌されていた餌は、ノシメトンボ*Sympetrum infuscatum*やシオヤトン

ボ*Orthetrum japonicum japonicum*などのトンボ科のほか、カゲロウ科、アブ科、ツノトンボ科、チョウ目、ガ類、カメムシ目、エゾハルゼミ*Terpnosia nigricosta*のセミ科、ガガンボ科で、種の特定は数種類以外、困難でした。

■雄の長い尾の役割

サンコウチョウの雄の特徴でもある尾ですが、30㎝ほどもあり、他の鳥類に比べ、非常に長いことがわかります。この尾は、東南アジア方面から渡来した時点ではきちんと存在するのですが、８月中には脱落し、短い尾になります（図４）。

図４　換羽期の雄の羽衣

９月下旬には元の東南アジアに戻るわけですから、長い尾の状態で渡ってきて、短い状態で帰ります。なぜこのようになるのでしょうか？ここからは筆者の推測ですが、渡って来たときには、雌への求愛のためにこの長い尾があったほうがつがい形成しやすく、帰るときにはこの長い尾は長距離飛翔の際じゃまになり、天敵等にねらわれやすくなるからではないでしょうか。

■謎の生態

サンコウチョウの調査をしていて最も驚き、未だにその生態学的意味が不明なことがあります。いわばサンコウチョウの生態の中でも最大の謎の生態です。それは、羽を広げて尾を上げながらダンスをすることです（図５・６）。はじめはオオフウチョウ*Paradisaea apoda*などの極楽鳥のように、「雌に対しての雄からの求愛なのだろう！」と単純に考えていたのですが、雛が巣立ちする前後でもその行動が見られ、しかも雌雄共に踊るから、これが目下の謎です。

図５　雄のダンス

図６　雌のダンス

国内でサンコウチョウ研究に精通している第一線の研究者に尋ねても、「このような行動は知らない、見たことがない」とか、海外の様々な論文を調べても、これに関することは報告されていません。今後、ますますこの行動の生態学的意味を解明するため、調査研究活動を継続していきたいと思っています。

■狭まる生息地

上記のような行動の意味を解明するためにも、サンコウチョウの生息地である里山を今後、保護・保全する必要があります。しかし、サンコウチョウの生息地である里山は、私有林であることが多く、成長の早いスギは30年前後で伐期になることから、次から次へ伐採されて、環境が激変する昨今なのです。

生息地の減少＝繁殖地の減少となり、これは生息個体数の減少に直結します。このようなことから、私たちの岩手県では、今、サンコウチョウは激減傾向にあり、世界的にも減少傾向にある鳥類に位置づけられています。スギ林は、伐採を目的として植林されたものですから、致し方ないのですが、サンコウチョウがさえずり、安心して棲める環境を残せないものか？模索・検討中です。

■今年の状況と今後

今年もまた、サンコウチョウが渡ってきました。鳴き声を頼りに、その営巣場所も発見できています。しかし、昨年度伐採された繁殖地には、戻って来ませんでした。サンコウチョウに限らず、生息地の大きな改変は、野鳥にとって大きなストレスであると同時に棲みにくい環境であるに違いありません。

従って、人工林といえども大きな環境改変は避けるとか、もしくはどうしても皆伐を免れない場合には、近場に代替地を準備しておくことも必要と考えます。

サンコウチョウは日本の里山を代表する指標鳥類ですから、サンコウチョウが棲めなくなった里山は、もはや里山と呼ぶことができないのではないでしょうか。

「月日星ポイポイポイ」というさえずりが、あちらこちらから聞こえてくる里山がこれからの将来、少しでも多く残せないか？里山の森づくりがどのようにあるべきか？を真剣に考え、行動するときではないか！と自問自答する2017年度のサンコウチョウ繁殖期でした。

■展覧会案内

巡回展「海を越えた絆～『ミス岩手』と青い目の人形～」

会場：陸前高田市コミュニティホール、一関市博物館、岩手県立博物館

昭和２年（1927）、日米関係の悪化に心を痛めた宣教師シドニー・Ｌ・ギューリック博士と渋沢栄一が中心となり、親善交流を目的とした大きなプロジェクトが挙行されました。未来をになう両国の子どもたちが人形を介した交流を行うことで相互理解を深め、国境を越えた友情を育んで欲しいという願いによるものです。

３月３日のひな祭りの時節、まずアメリカの子どもたちから日本へ約12,000体の人形が贈られ、各県へ届けられました。そして、日本では子どもたちからの募金をもとに58体の答礼人形が準備され、クリスマスを前に海を渡りました。

この人形交流が行われてから90年の節目を迎えた今年、答礼人形「ミス岩手」を蔵するバーミングハム公立図書館のご協力を賜り、東日本大震災で被災した地域の復興支援を目的に、県内３施設で里帰り展を開催する運びとなりました。

里帰り展は陸前高田の会場を皮きりに、一関、盛岡と巡ります。陸前高田では「ミス岩手」と市立気仙小学校所蔵（陸前高田市立博物館寄託）の友情人形「スマダニエル・ヘンドレン」が対面を果たします。人形の一時保管や収集にご協力くださった一関市博物館では「ミス岩手」とともに一関市内の小学校に残る４体の友情人形が公開される予定です。

そして、当館では県内で現存が確認される友情人形全18体が初めて一堂に会します。愛でられ、時に身命を賭して守られてきた県内の友情人形。その多くはアヴェリルマニュファクチャリング社製で、もとは同じ容姿のお人形であったと考えられます。しかし、それぞれの地で歴史を刻んできた証しでしょうか。今はどのお人形も異なる表情を見せてくれます。日米のかけはしとなり、今は優しい笑みをたたえ私たちを見守る「人形大使」へ会いに、最寄りの会場へ是非お越しくださいませ。

（学芸第三課　川向富貴子）

ミス岩手（アラバマ州バーミングハム公立図書館提供）

主催　岩手デジタルミュージアム構築事業実行委員会、岩手県立博物館、（公財）岩手県文化振興事業団
共催　バーミングハム公立図書館、陸前高田市教育委員会、釜石市教育委員会
協力　陸前高田市立博物館一関市博物館、㈱吉徳

文化庁

平成29年度地域の核となる美術館、歴史博物館支援事業

■巡回展in陸前高田
【会期】平成29年12月８日（金）～12月10日（日）９：00～17：00（最終日は16：00まで）
【会場】陸前高田市コミュニティホール［陸前高田市高田町字栃ヶ沢210番地３］
【費用】無料
主な公開資料：答礼人形「ミス岩手」、友情人形１体（陸前高田市立気仙小学校蔵）
関連イベント：★ギャラリートーク　12月10日（日）　１回目／11：00～、２回目／14：00～　当日受付・聴講無料
講師／㈱吉徳顧問 青木勝氏（2年前の「ミス岩手」のお直しをはじめ、各地の答礼人形の修復を手掛けています。）
元陸前高田市立気仙小学校長　菅野祥一郎氏（東日本大震災で被災した友情人形「スマダニエル・ヘンドレン」を救出しました。）

■巡回展in一関
【会期】平成29年12月12日（火）～12月17日（日）　９：00～17：00（入館は16：30まで）
【会場】一関市博物館［一関市厳美町沖野々215-1］
【費用】要入館料（一般300円、高校生・大学生200円、中学生以下無料）　※団体割引や入館料免除対象あり
主な公開資料：答礼人形「ミス岩手」、友情人形４体（一関市立黄海小学校・千厩小学校・新沼小学校・藤沢小学校蔵）

■巡回展in盛岡
【会期】平成30年１月８日（月・祝）～３月22日（木）　９：30～16：30（入館は16：00まで）　休館日をのぞく
※ミス岩手は被災地支援の一環として２月16日（金）から18日（日）［15日は搬送日］まで釜石市民文化会館へ特別出品いたします。
※友情人形は２月12日（月・祝）まで全18体を公開いたします。一部人形は学校行事等の都合により２月14日（水）から順次所蔵機関へお返しします。
【会場】岩手県立博物館［盛岡市上田字松屋敷34番地］
【費用】要入館料（一般310円、大学生140円、高校生以下無料）　※団体割引や入館料免除対象あり
主な公開資料：答礼人形「ミス岩手」、友情人形18体（一関市立黄海小学校蔵、一関市立千厩小学校蔵、一関市立新沼小学校蔵、一関市立藤沢小学校蔵、一戸町立鳥海小学校蔵、岩手町立沼宮内小学校蔵、奥州市立江刺愛宕小学校蔵、学校法人内丸学園盛岡幼稚園蔵、北上市立博物館蔵［更木小学校・二子小学校旧蔵］、葛巻町立葛巻小学校蔵［田野小学校旧蔵］、雫石町立下長山小学校蔵、花巻市石鳥谷歴史民俗資料館蔵［八日市小学校旧蔵］、花巻市立若葉小学校蔵［上中小学校旧蔵］、水沢こども園蔵、盛岡市立桜城小学校蔵、盛岡市立城南小学校蔵、陸前高田市立気仙小学校蔵）
関連イベント：★お話しライブ「青い目のおともだち」　１月８日（月・祝）　１回目／10：15～　２回目／13：00～　無料
過去の教訓や大きな願いを未来に繋げたいと物語を制作し発表している微将蓮氏によるお話しライブです。
出演／微将蓮Ren-Bisyo（本名 永野紀久子）氏（お話しライブライター）
★リードオルガン演奏会　１月８日（月・祝）　※時間等の詳細は当館HPでご案内いたします。
東日本大震災の津波で被災したリードオルガン。修復によりよみがえった往時の音色をお届けします。
演奏／作曲家・ピアニスト　中村由利子氏
★特別講演会「海を渡った人形大使～日米人形交流90周年～」　２月４日（日）13：30～15：00　当日受付・聴講無料
講師／㈱吉徳顧問・青木勝氏

■展覧会案内

テーマ展「ひとのかたち～ひなまつりを迎える前に～」

会期：平成30年１月８日（月・祝）～平成30年２月12日（月・祝）

《展覧会関連イベント》

■展示解説会　当日受付・要入館料
平成30年１月13日（土）14：30～15：30

■県博日曜講座　各回13：30～15：00　当日受付・聴講無料
①平成30年1月14日（日）「花巻人形の源流を探る－ひとがたから雛人形へ－」　講師：花巻市博物館長 髙橋信雄 氏
花巻人形は江戸時代後半盛岡藩領花巻で誕生した郷土人形です。郷土人形の最高峰とも評される花巻人形の特徴とそのルーツをたどります。
②平成30年１月28日（日）「ひとのかたち～「ひとがた」と「にんぎょう」」　講師：当館学芸員
さまざまな形で暮らしに寄り添うお人形を紹介します。

■ワークショップ「こけしの絵つけ」　幼児（要保護者付添い）～一般対象　予約制（先着順）・有料（1000円）
ろくろで挽いた木地（①こけしびな、②伝統こけし）のどちらかを選び、オリジナルのこけしを作ります。汚れてもよい服装でご参加ください。
日　　時：平成30年１月20日（土）10：00～12：00
講　　師：田山和文・和泉工人
（盛岡市・五葉社／昭和12年の創業以来、南部系こけしの伝統を継承しつつ、盛岡を題材とする木製玩具の作品を多数うみだしてきた工房です）
定　　員：20 名（こけしびな、伝統こけし各10名）
申込方法：平成30年１月４日（木）～１月19日（金）の開館時間、電話または博物館総合受付にて。

■たいけん教室「おひなさまづくり」　幼児（要保護者付添い）～小学生対象　予約制（先着順）・有料（200円）
①平成30年2月18日（日）　② 平成30年2月25日（日）　各回13：00～14：30
卵型を使って、おひなさまをつくります。詳細は８ページのインフォメーションをご覧ください。

ひとくちに「人形」といっても、その姿や性格は十人十色。本展では、さまざまな個性をもつ人形（ひとがた・にんぎょう）が、岩手に暮らす人々にどのような形で寄り添ってきたのか、民俗資料を中心に紹介いたします。ここでは、紙面の都合から出品予定の資料２点をピックアップしご案内いたします。

■一戸町高屋敷町内会の藁人形

一戸町の中心地から離れた山間部の高台に、かつては奥州街道沿いの村として賑わったと言われる40戸ほどの小さな集落（高屋敷・古屋敷・若子内）があります。ここでは平成17年に組織された町内会が主体となり、「結い」の精神に根ざしたさまざまな取り組みを行っています。「自分たちの手で地域の文化資源を調査し、伝承がとだえていた年中行事を行う」活動もそのひとつ。見事に復活を遂げたムシマツリ（虫祭り）やジンジョマツリ（人形祭り）は集落中から人々が集まる夏の定例行事となりました。

本展では、「今年は博物館用として控えめに作った」という男女２体の藁人形を出品します。

【写真１】高屋敷町内会の皆さん
ジンジョマツリにて（2017/8/27）

■紫波町・常光寺の「丑満画」

草木も眠る丑三つ時（丑満時）…怪談の出だしで使われる定型句です。この夜が深まる丑三つ時は、昔から祈願や呪いを行う時間帯と認識されていたようです。

「丑満画」と題する写真２の資料は、その様子を描いた絵と思われます。白装束を着て首から大きな鏡を垂れた女性。頭には３本のロウソクを立てた鉄輪をかぶり、右手に釘、左手に藁人形を握りしめています。この女性の秘めた願いはどのようなものなのでしょうか。

【写真２】丑満画〔掛幅／紙本著色〕
紫波町・常光寺 蔵

（学芸第三課　川向富貴子）

■事業報告

岩手県文化振興事業団自主事業「なつやすみ★スペシャル！」

ワクワク！こどもツアーとナイトミュージアム

岩手県立博物館の指定管理者である岩手県文化振興事業団では、お客様からのご意見を参考に、さまざまな取り組みを行っています。今夏も教育機関の夏季休業にあわせた臨時開館に加え、試験的に1ヶ月の開館時間延長を行ったほか、「なつやすみスペシャル！」と冠した催しを開催しました。その中でも特に好評だった2つの展示見学ツアーを報告します。

（1）ワクワク！こどもツアー

期日：平成29年7月26日～8月27日

参加者：自然116名、歴史39名

昨年から始まった当館解説員による子供向けの常設展示解説です。「自然」と「歴史」2コースを設定し、化石などのハンズオンを用いながら短時間で効率よく総合展示室を見学するお手伝いをしました。

「夏休みの自由研究の資料となる説明を詳しくしてもらいとても助かった」「昔の文化、暮らしが良く分かって面白かった。友達や家族にも伝えたいと思った」「触れるものがあって感動した」など、お客様からは職員の励みとなる感想が多く寄せられました。このこどもツアーは、「いわて自然史・文化史展示室」を会場に、冬季も開催する予定です。

（2）ナイトミュージアム

期日：平成29年8月10日・11日

参加者：20組54名（定員制）

同じく今期で2回目となる、小・中学生とその保護者を対象とした催しです。誘導灯のほのかな光だけが灯る常設展示室を歩き、暗闇で違った表情を見せる資料（蛍石やホタルなど）や、電気が普及する以前の明るさを体感できる資料（竪穴住居や仏像、スネカなど）を学芸員が紹介しました。このイベントは表舞台に立つ学芸員のほかに裏方として多くの職員が関わり、準備に時間を費やしました。それだけに、ツアー終了後のお客様の笑顔は職員の心に深く刻まれました。

時代装束や調査着に変装した学芸員

（学芸第三課　川向富貴子）

■事業報告

第74回自然観察会「稲庭岳～秋の山を楽しむ～」

開催日　平成29年9月23日（土）

ぶあつい灰色の雲におおわれた空の下、26名を乗せたバスが博物館を出発。安代ICを経て稲庭岳に近づくと、山の上部はスッポリと雲をかぶっており、ひんやりとした空気の中を稲庭キャンプ場から歩き始めました。

登山道は牧草地を抜け、かつての放牧地跡に生えたダケカンバとチシマザサの間をゆるゆると上ります。牧草地では秋の花の代表格であるアザミ類やウゼントリカブトが咲き、ダケカンバ林内ではアキノキリンソウやヨツバヒヨドリなどのキク科の花や、ミズキ、オオカメノキ、ツルニンジンの果実が観察できました。

植物や昆虫を観察しながら山を登るうちに、雲が流されて青空が広がってきました。稜線へ上がった頃には、すっかり晴れて遠くまで見通せるほどになり、眺望を楽しみつつ山頂に到達しました。

短い昼食の後、山頂のササの上にいた高山性ハエトリグモの一種、ヤバネハエトリを観察したり、江戸時代の年号が刻まれた古い祠や灯籠の文字を解読したりする方々もありました。

下山コースは原生的なブナ林の中にあり、太いブナやダケカンバが林立していました。駒形神社を過ぎてからは細いブナやミズナラなどの二次林となり、ギンリョウソウモドキなどを観察しながら下りました。

下山後、近くで待機してもらっていたバスに乗って天台の湯へ移動し、入浴などの休憩を取った後で帰路につきました。

実は、当館の自然観察会で登山らしい登山をしたのは久しぶりのことです。道は概ねゆるやかでしたが、下山コースのはじめ3分の1は急な傾斜になっており、途中で膝が痛くなった方も多かったようです。今後も安全第一で観察地の選定を行いながら、時々はこのような登山にも挑戦したいと思っています。

（専門学芸員　鈴木まほろ）

■活動レポート

第９回岩手県立博物館まつり・第39回盛岡矯正展 ータッグフェスタin松園ー

開催日　平成29年10月１日（日）

今年で９回を数える「岩手県立博物館まつり」が10月１日に開催されました。この事業は、お子さんを中心に博物館をより身近に感じてもらい、この日だけのさまざまな体験を通して博物館の魅力を多くの人に知ってもらうことを目的に開催しています。また今年度は、隣接する施設でありながら、これまで別々に行っていた盛岡少年刑務所による第39回盛岡矯正展と共催する形で「タッグフェスタin松園」として行われました。

開門時間の９時になると、体験コーナーの整理券配布場所には、多くの親子連れの参加者の方々による行列ができていました。整理券が必要なプログラムは「化石のレプリカづくり」「勾玉づくり」「スライム時計づくり」の３つで、各プログラムとも午前・午後あわせて6回（一回あたり定員30名）が実施されましたが、どの回も満員御礼の大盛況でした。また、3つのプログラムの中では、特にスライム時計づくりの人気が高かったようです。

館内ではこのほかに、博物館まつり限定の「オリジナル缶バッジづくり」や、博物館を探検してチャレンジマークを探す「チャレンジ！はくぶつかん」といったコーナーから、戦国時代の甲冑や近世のドレスを身にまとうことができる「変身！」コーナーまでさまざまなプログラムがあり、館内のいたるところで子ども達の楽しげな声が聞こえてきました。

大人気だったスライム時計づくり

一方、屋外では学芸員と一緒に岩石園・植物園を巡る「たんけん！岩石園・植物園」を開催しました。このツアーはお子さんはもちろんのこと、一緒に来られた大人の方も楽しめるようにと考案されたプログラムで、中には岩石園ツアーに参加することを目的に来館された方もいらっしゃったようでした。また、重要文化財の曲り屋（旧佐々木家住宅）では、わりばし鉄砲やイタドリ笛などで遊ぶ「たのしい!! 昔あそび」を行いました。曲り屋から帰ってくる子ども達は、みな大事そうにおもちゃを抱えて芝生広場に移動し、楽しく遊んでいました。

大人にも好評の岩石園ツアー

さて、前述のとおり今年度の博物館まつりは盛岡矯正展との共催で行われましたが、その一環として実施した新しいプログラムが、岩手県立博物館と盛岡少年刑務所の２つの施設を股にかけて行われた「スタンプラリー（マツゾノクエスト）」です。２つの施設を探検し、見事に両施設に隠されたスタンプをゲットした方には、先着でタッグフェスタオリジナル缶バッジをプレゼントしました。博物館側では、総勢500名を超える達成者が現れました。さらに、盛岡矯正展に出演した鉄神ガンライザーが、当館の芝生広場にも来てくれるという、共催ならではのサプライズもありました。普段テレビで見ているヒーローの突然の来場に、子どもも大人も大興奮していました。

圧巻のストリートパフォーマンス

また、体験コーナーだけではなく、毎年恒例のステージイベントも行われました。最初の公演は、お昼に行われた葛巻高校郷土芸能部さんによる「葛巻神楽」でした。神楽の全国大会「神楽甲子園」にも出場した郷土芸能部さんによるダイナミックな演舞に圧倒されました。最後には、権現様の口で頭を噛んでもらう「頭かじり」も行っていただき、来場された方々はお子さんの健やかな成長を祈り、頭をかじってもらう様子が観られました。午後には、岩手大学の岩手ストリートパフォーマンスクラブさんによる「ストリートパフォーマンス」を実施しました。この公演も今回の博物館まつりで初の試みとなりましたが、日頃の練習の積み重ねで身につけられたアクロバティックな技の数々に、来場された方だけでなく、スタッフ一同も思わず作業の手を止めて観入ってしまいました。公演終了後には、バルーンアートの配布を行っていただきました。可愛らしいプードルやかっこいい剣の形をしたバルーンを欲しがる子ども達の列は、配布終了まで途切れることはありませんでした。

最終的に3,200名を超す大勢の方々にお越しいただき、今年の博物館まつりも大成功に終わることができました。この度の事業に関わっていただきました皆様の多大なる御支援、御協力に対し、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

（学芸員　望月貴史）

岩手県立博物館
IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション 〈2017.12.1～2018.3.31〉

お知らせ
●年末年始の休館について
年末年始は12月29日(金)から１月３日(水)まで休館します。

展 覧 会
◆テーマ展「ひとのかたち－ひなまつりを迎える前に－」
平成30年１月８日(月・祝)～平成30年２月12日(月・祝)
２階　特別展示室
ひとくちに「人形」といっても、その姿や性格は十人十色。本展では、さまざまな個性をもつ人形(ひとがた・にんぎょう)が、岩手に暮らす人々にどのような形で寄り添ってきたか、民俗資料を中心に紹介いたします。
■展示解説会　1月13日(土)14：30～15：30 講師：当館学芸員
■県博日曜講座　当日受付　聴講無料　各回13：30～15：00
1月14日(日)講師：髙橋信雄氏(花巻市博物館館長)
1月28日(日)講師：川向富貴子(当館学芸員)
※下記「県博日曜講座」の欄もご覧ください。
■ワークショップ「こけしの絵つけ」
1月20日(土)10：00～12：00　計20名
事前申込制(先着順)※１月４日(木)～申込受付開始
講師：田山和文・和泉 工人(盛岡市・五葉社)
※展覧会の詳細はp.５案内記事をご覧ください。

◆地域展「明日につなぐ気仙のたからもの－津波被災から再生された陸前高田資料を中心に－」
平成３０年３月３日(土)～平成３０年３月２８日(水)
２階　特別展示室
■ギャラリートーク　3月3日(土)　講師：大津波プロジェクト関係者
■展示解説会　3月10日(土)、3月24日(土)　14：30～15：30
講師：赤沼英男(当館学芸員)他 関係者
■特別講演会「ふるさとは負けない」
3月18日(日)　13：30～15：00
講師：河野和義氏(気仙町けんか七夕祭り保存連合会名誉顧問)
★リードオルガン演奏会：１月８日(月・祝)、３月３日(土)、3月11日(日)
演奏／中村由利子氏(作曲家・ピアニスト)
★シンポジウム：３月11日(日)
※地域展関連事業の詳細は当館ホームページにてご案内します。

◆巡回展「海を越えた絆～『ミス岩手』と青い目の人形」
平成２９年１２月８日(金)～平成３０年３月２２日(木)
会場：陸前高田市コミュニティホール、一関市博物館、岩手県立博物館(各会場で開催期間が異なります)
★お話しライブ「青い目のおともだち」　１月８日(月・祝)　無料
1回目／10：15～
2回目／13：00～　出演／微将蓮Ren-Bisyo氏
★特別講演会　２月４日(日)13：30～15：00
当日受付・聴講無料
「海を渡った人形大使～日米人形交流90周年～」
講師　㈱吉徳顧問 青木勝氏
※巡回展の詳細はp.４案内記事をご覧ください。

県博日曜講座
第２・第４日曜日　13：30～15：00　当日受付　聴講無料
当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。
＊展覧会関連講座
12月10日「ドラゴンアイ(八幡平・鏡沼)のでき方を考える」　山岸千人(当館学芸員)
12月24日「岩手の往来」　薗田貴弘(当館学芸員)
＊１月14日「花巻人形の源流を探る－ひとがたから雛人形へ－」　髙橋信雄氏(花巻市博物館館長)
＊１月28日「ひとのかたち～「ひとがた」と「にんぎょう」～」　川向富貴子(当館学芸員)
２月11日「作人館と求我社の人々～自我の確立を求めて～」　武田麻紀子(当館学芸員)
＊２月25日「被災資料が語る海の交流(仮)」　赤沼英男(当館学芸員)
＊３月11日 気仙展関連シンポジウム
＊３月25日「「どげ」って何ですか－気仙地方の婚礼習俗－」　小野寺俊彦(当館学芸課長)

冬の写生会
写生会：12月16日(土)～１月14日(日)　幼児～小学生対象
作品展示：１月20日(土)～２月12日(月)
博物館からの景色や展示資料をお絵かきしましょう。(クレヨンや色鉛筆はご持参下さい。)

週末の催し
◆ミュージアムシアター
毎月第１土曜日　13：30～15：00頃　講堂　当日受付　視聴無料
○12月２日　クリスマスアニメ特集(85分／アニメ／幼児～一般向け)
「クリスマスキャロル」(29分)
けちん坊おじいさんに訪れたクリスマスの奇跡とは・・・
「チップとデール　リスの山小屋合戦」(56分／８話収録)
チップとデールは大忙し！
○１月６日　「新春むかし話特集」(70分／アニメ／幼児～小学生向け)
①十二支のはじまり(10分)　②杜氏春(21分)
③こぶとりじいさん(12分)　④貧乏神と福の神(12分)
⑤ぶんぶくちゃがま(15分)
○２月３日　「アテルイ」(93分／アニメ／小学生～一般向け)
いじめを恐れて学校から飛び出した飛人は突然1200年前にタイムスリップしてしまい･･･
○３月３日　防災と名作アニメ(73分／アニメ／幼児～小学生向け)
①ぼくらはすぐに逃げたんだ　東日本大震災から学んだこと(14分)
②むしむし村の防災訓練(12分)　③手袋を買いに(15分)
④大造じいさんとガン(20分)　⑤たぬきの糸車(12分)

◆チャレンジ！はくぶつかん
毎月第２・第３土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付
チャレンジ！マークをさがして はくぶつかんをたんけん！
12月９日・10日・16日・17日　テーマ：大
１月13日・14日・20日・21日　テーマ：犬
２月10日・11日・12日・17日・18日　テーマ：気仙
３月10日・11日・17日・18日　テーマ：花

◆ミュージアムコンサート―親子で楽しめるクリスマスの音楽会♪
12月23日(土・祝)13：30～14：30　場所：講堂　当日受付・無料
出演団体：レヴァンテ
ギターによく似た楽器「マンドリン」のコンサートです。

◆たいけん教室～みんなでためそう～(事前申込制)
毎週日曜日　13：00～14：30　幼児(保護者同伴)～小学生20名程度
さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。
※全プログラム有料です(材料費代／プログラムごと異なります)。
※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間(9：30～16：30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。１度に３名まで予約可能です。予約状況・材料費代はホームページでご確認ください。

12月	3日　松ぼっくりのXmasツリー 10日　まゆで干支づくり(戌) 17日　松ぼっくりの正月かざり 24日　まゆで干支づくり(戌)	1月	7日　みずきだんご 14日　たこづくり 21日　こはくの玉づくり 28日　化石のレプリカ
2月	4日　オリジナル卵をつくろう 11日　スライムであそぼう 18日　おひなさまづくり 25日　おひなさまづくり	3月	4日　石のオリジナルはんこ 11日　ほのぼのあかり 18日　天然石のフォトフレーム 25日　3Dメガネで万華鏡

冬のワクワク！ワークショップ
12月23日(土・祝)対象：幼児(保護者同伴)～小学生　当日受付
受付時間９：45～11：30　13：00～15：00　材料費各100円
「化石のレプリカづくり(アンモナイトか恐竜の歯)」定員100名

定時解説
平日～土曜日　13：30～14：30／日曜日 10：30～11：30
解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員が皆様のご質問や解説のご要望におこたえしています。
※他の館内イベントとの兼ね合いでお休みする場合があります。

利用のご案内
■開館時間　９：30～16：30(入館は16：00まで)
■休 館 日　月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)
年末年始(12月29日～１月３日)
■入 館 料　一般310(140)円・大学生140(70)円・高校生以下無料
(　)内は20名以上の団体割引料金
※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。
※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより
第155号
平成29年12月1日発行

編集　岩手県立博物館
〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34
Tel. (019)661-2831／Fax. (019)665-1214
発行　公益財団法人岩手県文化振興事業団
〒020-0023 盛岡市内丸13-1
Tel. (019)654-2235／Fax. (019)625-3595